

令和 2 年 度

第 2 回総合教育会議会議録

(開会 令和 3 年 2 月 15 日)

(閉会 令和 3 年 2 月 15 日)

岐阜県可児市教育委員会

令和3年2月15日午後1時00分開会

出席者

富田成輝君（市長）

伊藤小百合君（教育委員）

小栗照代君（教育委員）

瀨瀨新吾君（事務局長）

今井竜生君（学校教育課長）

籠橋義朗君（教育長）

丹羽千明君（教育委員）

長井知子君（教育委員）

石原雅行君（教育総務課長）

教育委員会事務局職員

木村彰伯君（教育総務課総務係長）

中水麻以君（教育総務課総務係）

圓藤 亨君（教育総務課総務係）

開会宣言

- 市長（富田成輝君） 令和2年度第2回総合教育会議の開催を宣言。

挨拶

- 市長（富田成輝君） 学校規模適正化に関する基本方針と新型コロナウイルス感染症に対する学校運営を議題とする。

幼稚園、小学校、中学校の子どもたちや家庭内の感染も出ており、かなりの児童生徒、先生方がPCR検査を今まで受けているが学校内で感染したという例は今のところ確認されていない。一番恐れているのは学校内で子どもたちに感染することである。学校内での感染拡大防止への先生方、保護者の方、子どもたちの協力に感謝する。

議案

- 教育総務課長（石原雅行君） 可児市学校規模適正化に関する基本方針（案）について、平成25年の策定から8年経過し児童生徒数の推移に変化が生じたこと、県において学級編成の標準を引き下げる方針が示されたこと等に伴い、児童生徒数の推計の見直し、35人学級が段階的に導入された場合の想定学級数の見直し、各学校の「今後の進め方」を推計に応じた表記に修正等したことについて説明。

- 市長（富田成輝君） 教育委員の皆さん、質問、意見をいただきたい。

私は専門家ではないが、中学生は40人でその分小学校1・2年生を30人にした方が適当な気がする。35人が現実的にいいということだと思うが、何となく腑に落ちない。専門家の先生方が決める中で何か理由があると思うので確認してほしい。

- 教育総務課長（石原雅行君） はい。

- 教育委員（伊藤小百合君） 平成25年にこの学校規模適正化に関する基本方針を定めてから子どもたちの数など変動があり変更されている。

私の担当の地区も過去に子どもの数が減り統廃合の噂を聞いたこともあるが、新たな団地の開発で、子どもの数が増え始めている。その都度状況を踏まえ話しあい子どもたちにとっていい方向にしていけないといけない。

可児市内には大規模校や小規模校など様々な学校があるが、なるべく子どもたちには同じような条件で教育を受けさせてあげるとよい。

- 市長（富田成輝君） 可児市内の小・中学校は、同じような環境でという意見について事務局はどう考えるか。

- 教育総務課長（石原雅行君） その通りだと思う。

- 市長（富田成輝君） 私はちょっと違う。公平性という点からできるだけ同じような環境にというのは行政としての原則だと思うが、実際、様々な状況の違いなどがありみんな一律一緒というのは現実的には難しい。

子どもたちもみんな違い、好む好まないにかかわらず、それぞれ異なる環境にいて、苦労したり、学んだりしている。違う環境で育った子どもたちがまたどこかで一緒になって勉強し合う、簡単に言うと多様性ということである。

同じような環境にするというのは我々の責務であるが、多様性があるというのはある

意味、街の強さだと思っている。大規模校、小規模校ともにそれぞれに良い点、悪い点があり、同じような環境でというのは理想であるが、それが正しいかというと、そうでもない気がする。同じ条件がいいのか多様性という点からみればどう意味があるのか教育委員会事務局で研究して教えてほしい。

○ **教育委員（丹羽千明君）** 今渡北小学校は、当初の予定より児童数が増え、令和5年には1,000人を超え、35人学級への対応も考えると、学校運営がきちんとできるか心配である。職員室、教室も余裕がない。

○ **教育総務課長（石原雅行君）** 今渡北小学校は、令和5年度までに今より4クラス増える予定であるため教室に転用できる部屋がないか検討している。もし、増築が必要となれば、現段階ではプール付近で対応できないかと思っている。今後必要な教室数を見極めながら対応を検討していく。

○ **市長（富田成輝君）** 令和3年度中にはどうするか市として基本的な考え方を整理し方針を決めないといけないと思っている。

今渡北小学校は外国籍児童の割合も多く動向が読みにくい要因になっているが、それも見通しながら、令和3年度中には事務的に詰め、議会等関係者と必要な調整をしていくことが必要である。

○ **教育委員（小栗照代君）** 兼山小学校の児童数が減り、令和3年度はギリギリであるが、複式学級になろうかという状況である。いろいろな方向性があるが、子どもたちにより良い環境をとということで考えて進めないといけない。兼山小学校に在籍する子どもの意見、その家族の意見、今後兼山小学校に入る子どもを持つ保護者の意見を伺いながら方向性を決めないといけない。

○ **教育総務課長（石原雅行君）** 3月14日に現在の1年生から5年生の保護者と、今後就学予定の保護者を対象に説明会を開催する予定である。兼山小学校の今の状況、他市の事例など伝えながら、保護者においても今後検討していただくためのきっかけの場になればと考えている。

○ **市長（富田成輝君）** 最終判断は私がすることになるが、一番大切なのは子どもたちにとってどういう状況が一番いいのかである。教育委員会の基本的な考えは1学年1学級であり、それはそのとおりだと思うが、近隣には複式を選択したところ、統合を選択したところもありどちらもメリット・デメリットがある。

一番大切なのは子どもたちであり、小学校の教育環境をどういう形にするのが子どもたちにとって一番いいかを真剣に考えていただくのはやはり親であるため、いろいろな考え方があるという前提で保護者の皆さんにメリット・デメリットを伝え、近隣市町村の状況も説明し、議論していただけるようにしたい。

できれば保護者の皆さんで議論いただき、基本的な考えがまとまればそれに基づき地域の方へと広げて意見を聴くといったように丁寧な手続きが要ると思う。

3月14日の説明会は私も参加し、基本的な考え方を挨拶の中で説明させていただく。現状は白紙で、保護者の皆さんにしっかりと情報を得て議論してくださいということである。

○ **教育委員（長井知子君）** 今後、35人学級になるのは子どもたちにとっても先生にとってもいいことだと思う。少人数での教育は子どもたちの強みになると思う。しか

し、以前知人の保護者に聞いた話では、小規模の学校で育ち、大規模の高校へ行くと環境の変化に慣れなかつたりすると聞いた。兼山小学校についても、皆さんが言われたように、子どもたちがどういう教育環境で育つのがいいか、保護者の方とメリット・デメリットを考え、いい方向にもっていきたい。

- **市長（富田成輝君）** それぞれ小規模・大規模のいいところ悪いところがある。

複式学級の議論はまた少し違ってくる。私は必ずしも複式学級が駄目だとは考えていない。教育の専門家の考えは違うかもしれないが、先生が教えるににくい理由にならない。近隣で複式学級をしているのでその先生にゲストに来ていただき話をしてもらいたい。

小規模・大規模の情報や複式学級の問題等、丁寧に保護者の皆さんに説明して議論をスタートしてもらいたい。

- **教育長（笹橋義朗君）** 帷子小学校が1,300人規模の時代もあった。あまり人数だけで、そのときそのときに考えを変えない方が良いのではないかと思う。兼山小学校は児童が少ないということで、現状1人転出すると基準では複式学級になる学年もあるほど減ってきている。保護者、地域の方々が本当に兼山の子どもたちのことを考えてもらえるように、メリット・デメリットを伝えて考えていただける機会にしたい。

- **市長（富田成輝君）** 学校規模適正化の基本方針（案）については、基本的にこの案でいき、この基本方針を基にさらに子どもたちのための議論を進めていく。兼山小学校のように複式学級になる可能性が高い学校、今渡北小学校のようにあふれてしまう学校、両極端の課題ではあるが、どうしていくか現実に対策を検討していく。

議題2の新型コロナウイルス感染症に対応した学校運営について。

- **学校教育課長（今井竜生君）** 可児市立小中学校における感染者の状況、学校内での感染はないことや感染防止対策として取り組んでいることについて説明。

児童生徒の学習面については、授業時間数は少なくなったが、学習は計画どおり進め、大きな遅れはなく3月までに授業を終えることができると聞いている。

感染症にかかわる学校の対応で、どうしても休まないといけない児童生徒が生じるため、学習を補う手だてや、つながりを持つための手だてとして学校からの投げかけや、子どもたちに指示し勉強させることを進めている。

次年度はタブレットを1人1台配る予定としているため、オンラインを活用し家庭と学校のやり取り、休んでいる間の授業の様子を映像に残して見るなどの手だてを考えていきたい。

- **市長（富田成輝君）** 教育委員の皆さん、質問、意見をいただきたい。

- **教育委員（丹羽千明君）** 当初は感染防止のマスクなどがなく大変だったが、今は手に入るようになった。学校の手洗いの蛇口の取り換えや、検温グッズも取りそろえていただいた。3月には卒業式があるが従来の方式を変え、保護者1名など感染拡大防止策を徹底しておこなうことになると思う。

- **市長（富田成輝君）** 去年の卒業式もそういうことで、非常に楽しみにしている保護者、おじいちゃん、おばあちゃんたちには本当に気の毒というか、申し訳なく思う。難しい問題はあるが、何とか卒業式をオンラインで流せないかとか、保護者の方、家族の方が後からでも見られるよう検討していただいている。

○ **教育長（笹橋義朗君）** 今年の卒業式は簡略化され例年と違い、卒業証書の授与が中心で、合唱などや呼びかけは行わないのが原則である。事後にはなるが、ケーブルテレビで放送し、ユーチューブで流すことも検討している。

○ **市長（富田成輝君）** やれる範囲でやっていただきたい。

私が一番心配しているのが、オンラインである。学校の休業以外でも活用してほしいが、タブレットを活用した自宅での学習の仕組みは私立では行っていたりするが、非常に大きな格差を生む原因になる。自宅でオンライン学習ができる仕組みは作るが、各家庭でそれを使って勉強する子としない子との差が出てくる。小さい子だと、親がいない家庭で勉強してといっても難しい。オンラインを活用することは非常にいいが、その仕方によっては勉強する子としない子の格差が出てくる可能性は非常に高い。

オンラインの怖さは情報を得ている人と得ていない人。またインターネットの世界には真実でない情報もたくさんある。そういった間違った情報を信じてしまうという件も含めてオンラインを活用するのは非常に怖い。教室でやれば先生の目が行き届きそれほど差が出ない。大学のように真面目に受けていなければ留年や卒業できないという縛りがあればいいが、小中学校の場合はそうではないので難しい。もちろん、オンラインを利用して子どもたちに教育するメリットはあるので進めながら、受け取る家庭の取り組みの仕方をどう各家庭に伝えられるか。非常に難しい課題があると思っているので、いろいろと研究し整備したシステムが本当に子どもたちにとっていい物になるようにしていただきたい。

閉会宣言

○ **市長（富田成輝君）** 令和2年度第2回の総合教育会議の閉会を宣言。

閉会 午後1時55分